

令和８年度 大阪府立豊中支援学校 第Ⅰ回 学校運営協議会記録

１、日時：令和８年６月１０日（水）１０：００－１２：００

２、場所：本校調理室

３、構成：＜ 委員 ＞ ６名

＜事務局＞ 校長、准校長、教頭２名、事務部長、首席３名、指導教諭、教諭３名

＜ 傍聴 ＞ １名

４、内容

10:00	第Ⅰ回協議会次第説明 校長挨拶 協議会委員・事務局の紹介 委員長、副委員長選出	(事務局) (校 長) (校 長)
10:15	報告及び協議、質疑応答 ・令和８年度学校経営計画及び学校評価 ・令和７年度キャリア教育取り組みの報告 ・学校規模ポジティブ行動支援について ・令和７年度の進路状況について	(委員長) (校長、准校長) (首 席) (指導教諭) (首 席)
11:50	事務連絡 准校長挨拶 ・令和８年度 選定教科書について ・校内見学	(准校長) (首 席)

上記のとおり報告等を行い、各委員より次のような意見をいただいた。

令和８年度学校経営計画及び学校評価、学校生活全般、キャリア教育取り組みの報告について

＜学校より＞

- ・中期的目標について、新校開校に関する内容を新しく追加した。通学区域の変更による子どもの不安をしっかりとサポートしていく。説明も丁寧に行う。
- ・キャリア教育について、小学部から高等部までの取り組みとなるよう、柱となるものを検討中。
- ・ICT教材の寄付の有効活用方法を「プラス会議」で話し合いを行っている。
- ・SWPBSについて、ポジティブ行動支援を本校で広げていき教職員で取り組んでいく。
- ・地域支援について、センター的機能としての取り組みの一つに、教材や授業アドバイス等を動画配信。
- ・本校の教育活動の発信について、学校ブログをさらに活用していく。

＜委員より＞

- ・地域や社会で知的障がいを理解してもらうことが大変。取り組んでいることを発信していき、支援が必要でもできることがたくさんあるということを知ってもらいたい。また、学校でいろいろな経験ができることはすばらしい。
- ・地域での体制を構築していくために支援教育コーディネーターが各校へ赴いて支援しているが、その取り組みが発展していくように、支援学校の知識をもらうなど、連携もお願いしたい。
- ・取り組みが次々という形に変わっていく半面、子どもの人数が多く「ゆとり」がないようで心配である。
- ・令和１０年度に新校ができるということを地域の福祉機関の方も知らない人がわりといる。情報発信をもっとしていただきたい。また、豊中市に二つ支援学校ができることになる。同じ福祉を利用していくことを受けて、新校と本校の取り組みは統一しているものもあったら良いだろう。

- ・支援学校のセンター的機能について、以前の報告（地域の小学校からの依頼が中心、中学校は少ない、高校はほぼなし）から変わっているか？良い取り組みを宣伝したら良いのでは？
地域全体、もしくは府下で考えていけたら良い。
- ・SWPBSは、わかりやすく、うまく浸透していくと良い。
- ・授業が基本である。池田市に関わっているが、市の教員には、普段行っていることを支援教育の視点で考えていくことを指導している。
- ・キャリア教育の取り組みについて、保護者への発信が弱く、理解ができていないように感じる。取り組みの様子がわからない。教員ががんばって取り組んでくれていること、子どもの学びの様子が保護者に伝わると、家庭でも振り返りができ、次につなげていくことができる。
- ・「家庭」が社会の最も小さい単位である。家の中で、自分でできることや小さなことの積み重ねがキャリア教育につながると思う。
- ・地域の小学校でのキャリア教育として、中学校の教員に依頼して、支援学級在籍の保護者対象に進路講話をした。中でも入学選抜の話は、準備していく内容が具体的にわかって、日々の学習支援の参考になった。

学校規模ポジティブ行動支援について

<学校より>

- ・「ポジティブ行動支援」のテーマを3つに整理し、毎月のテーマを設定し、週ごとに「かるた」という形で発信している。本校のキャリア教育の重点目標と同じように、「ポジティブ行動支援」についても、日ごろから教員がそれぞれ実践している関わりについて学校全体で共有でき、肯定し支え合うことで、自然と校内で浸透していけばと考えている。
- ・まちがいをはたのしむ取り組み「矢八」の実践紹介。

<委員より>

- ・学校で取り組んでいることを保護者も知りたいと思うので、家庭でもできるように連絡帳等でポイントを教えてほしい。
- ・PTAと連携するのも良い。
- ・「授業が楽しい」が一番。教材の工夫が大事。

令和7年度進路決定状況、新規採択の教科書等、その他について

<学校より>

- ・昨年度の進路の報告。
- ・課題として、生活介護との併用を希望した生徒が前年度より増加した。生徒数増のため、夏休み中に実習が集中する中で実習回数がさらに増え、保護者や教員の付き添いが必要なため、日程調整が大変である。
- ・生活介護の空きがなくなっている現状。希望が叶わない生徒も出てきている。今後さらに厳しい。
- ・就労選択支援がはじまったが、実施している事業所が5か所しかなく、一人当たりの時間もかかるため、多くの受け入れが困難な状況であり、新しい制度が始まったのに活かせないのが現状である。

<委員より>

- ・就労選択支援は、生活介護との併用について、「合理的な理由がないと併用が難しい」と言われているので、この点でも今後は厳しくなってくるだろう。
- ・「すぐ就職」にこだわらなくても良い。力をつけてからの就職という形でも良い。
- ・職業スキルのピラミッド（就労準備性のピラミッド）というものがある。まず働くためには、毎日通う、健康づくり、就寝起床の生活リズム、服薬の定着など、しっかりと身に着けていることが望ましい。
- ・教科書選定の状況を確認することができた。